



2025 明治安田 J3 リーグ 第 2 節
2/23 (日) 14:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest

ヴァンラーレ八戸

順位表 2/16現在 基本 1 試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	沼津	3p	+3	3	0	
2	栃木 C	3p	+1	2	1	
3	栃木 SC	3p	+1	1	0	
	長野	3p	+1	1	0	
5	福島	1p	0	2	2	
	奈良	1p	0	2	2	
7	岐阜	1p	0	1	1	---
	FC大阪	1p	0	1	1	A△
	讃岐	1p	0	1	1	
	鹿児島	1p	0	1	1	
11	群馬	1p	0	0	0	
	琉球	1p	0	0	0	
13	相模原	0p	-1	1	2	
14	高知	0p	-1	0	1	
	宮崎	0p	-1	0	1	
16	鳥取	0p	-3	0	3	

※八戸、金沢、松本、北九州は
第 1 節未開催につき順位なし

次回HomeGame

第 3 節 vs.ギラヴァンツ北九州
3/1 (土) 14:00
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後 3 時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩 3 分。
休：月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み珍道中
14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
<定休日：日曜・祝日>
TEL. 058-252-1580



通算対戦成績	全10試合（J3:10試合） 岐阜3勝 / 八戸5勝 / 2分け Jリーグ岐阜ホーム戦：2勝2分1敗			
直近の対戦結果	2024/08/17 八戸 4-1 岐阜 得点者:田口裕也 J3 - 24節@プラスタ			
ここ 3試合の 公式戦の 結果	岐阜	2025/02/16 J3 - 01節@花園 FC大阪 1-1 岐阜	八戸	2024/11/24 J3 - 38節@プラスタ 八戸 1-1 FC大阪
		2024/11/24 J3 - 38節@タビスタ 琉球 0-2 岐阜		2024/11/17 J3 - 37節@富山 富山 3-1 八戸
		2024/11/16 J3 - 37節@長良川 岐阜 2-2 大宮		2024/11/09 J3 - 36節@長野U 長野 0-1 八戸

●今年もまた、僕らの街に J リーグが帰ってくる。残念ながら、6 季目となる J 3 リーグ。それでも、シーズン開幕を迎えるに際しての、大きな期待と喜び、そしてわずかな不安の渦巻く感情は、どのカテゴリーにいても変わらないものだ。

昨季の岐阜は、上野優作監督 2 年目体制で更なる飛躍を目指したが、残念ながら例年と同様、GW を過ぎる頃から失速。上野監督は 6/27 (木) [第 18 節経過] に辞任し、天野賢一 HC が暫定監督に就任。しかし、それでもチームを立て直すことができず、一時は降格圏が見える勝点差 5 まで順位を下げてしまう。だが、9/20 (金) [第 2 8 節経過] に天野暫定監督が正式に監督に就任すると、そこからチーム成績は V 字回復。第 3 0 節からの 9 試合を、6 勝 2 分 1 敗・24 得点 10 失点という圧倒的な成績を残した。最終順位は、15 勝 8 分 15 敗・64 得点 56 失点で 8 位。J 2 昇格プレーオフ出場圏内 (= 6 位) とは、勝点差 5 で届かなかった。チームの復調が、あと 1 ヶ月早かったら……と思わずにはいられない。

今季の岐阜は、昨季終盤のチームをベースにしつつ、再構築を図った。終盤のスタメン選手は概ね残留し、新たな選手の加入で、選手層としては厚みを増したと考えていいだろう。ただし、コーチ陣は (昨年 9/20 (金) から就任した) 大橋浩司 HC 以外は、全員が交代。監督も新たに (鹿児島を J 2 に昇格させた実績を持つ) 大島康明氏が就任。したがって、今季のチームは新たな監督の下で、新たなサッカーの積み上げを、再びはじめることになるだろう。

2025 シーズンの J 3 は、ほぼ昨季と同様の試合日程だが、(交代枠は変化がないものの) ベンチ入り可能選手が 9 名に増えたため、90 分を通じてのチーム戦術に幅が生まれることになるだろう。また、2026 年の後半から J リーグは秋春制に移行するため、春秋制での最後のシーズンだ。2026 年前半は移行期の特別大会が予定されており、昇格・降格はないので、この 2025 シーズンこそは、悲願の J 2 昇格を達成したいところだ。

その 2025 シーズンを、2/16 (日) アウェイ・F C 大阪戦で開幕を迎えた F C 岐阜。試合は序盤から、F C 大阪の激しいプレスとシンプルで素早い縦へのロングボールに、岐阜の選手が対応しきれずに苦しんでいると、前半 20 分に自陣ゴール前でのミスにより、先制点を奪われてしまう。その後も決定機を逃がすなど、不安定な試合状況が続いた岐阜だったが、後半 A T 5 分に、#28 箱崎達也の F K を #11 佐々木快が頭でそらして、ようやく同点に追いつき、1 - 1 で試合終了。よくない試合内容だったが、アウェイで勝点 1 を持ち帰ることができたことは評価したい。チームは気持ちを切り替え、反省点を生かした上で、ホーム開幕戦を勝利で飾ってほしい。

さて、そのホーム開幕戦の対戦相手は、ヴァンラーレ八戸だ。昨季の最終順位は 11 位。今季は“J リーグ通算最多指揮・最多勝利”の記録を持つ、石崎信弘監督の 3 年目体制で、勝負の年と位置づけているだろう。その八戸だが、第 1 節が 4/27 (日) に予定されているため、この試合が今季初試合となる。したがってスタメン選手など不明な点が多いが、一方で 1 試合の実戦を経験した岐阜も修正点が見えているはずで、一長一短の面があるだろう。概して、石崎監督のサッカーは選手の豊富な運動量を持ち味としているため、開幕戦と同様に受けに回ってしまっは危険だ。開幕戦の二の轍を踏まぬよう、積極的なプレーで試合の主導権を握ることが重要だ。

八戸との通算対戦成績は、岐阜の 3 勝 2 分 5 敗・10 得点 13 失点。昨季の対戦では、ホーム戦 6/29 (土) 第 19 節を 1 - 2、アウェイ戦 8/17 (土) 第 24 節を 1 - 4 と、シーズンダブルを食らってしまった。今節こそは、リベンジを果たしたい。

八戸で警戒すべき選手には、昨年 2 試合で計 3 失点を奪われた #80 永田一真を挙げる。一方の岐阜では、やはり #11 佐々木快を挙げる。2021 年に八戸に大卒で加入して 4 シーズンを過ごし、昨季は 10 得点を挙げた青森県出身の選手が、この試合で“恩返し弾”を決める姿を、是非とも見せてほしい。

わずか数ヶ月のオフシーズンを経て、再びスタジアムに歓声が戻ってくる。このホーム・長良川で、僕ら F C 岐阜サポーターがスタジアムを緑に染め、声援や歓声、拍手・鳴り物の音を響かせる、そういった日々が戻ってくる。さあ、一喜一憂する全 38 試合・2025 年 J 3 リーグ。今年も最後まで全力で駆け抜けよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第1節】FC 大阪 1-1 岐阜

●2025 年 FC 岐阜の開幕戦は、後半 AT に追いついての辛うじて引き分けに。まあでも勝ち点が 1 でも付いたのだからと、ポジティブに捉えてみる。

ただ攻守ともにまだまだ手探り感があるのは否めないなあ。それでも新戦力にキラリと光るものが。特に後半途中から投入されたガンバ大阪からレンタル移籍加入の中村仁郎。彼のドリブルやスルーパスなど、さすが J1 出身と感じさせられることも。一度右サイドからカットインして左足でシュートを放った場面などは久保建英っぽかったな（笑）。

さて次戦、ホーム開幕戦は八戸が相手。いったいどんな戦いを見せてくれるのか。（岐阜の誇り）

●2/16、大阪府東大阪市にある花園ラグビー場で FC 大阪と戦いました。

いよいよ、2025 年シーズンのスタート、そして 30 年以上行ってきた春秋制シーズン最後の年になります。2026 年からは半年だけ特別なシーズンを挟んで同年秋（恐らく 9 月）から秋春制のシーズンに移行します。JSL（日本サッカーリーグ）末期（1986～1987 シーズンから 1991～1992 シーズンまで）以来になるんですね。

今年の岐阜は、戦力面での強化が大きく図られ、2 チームでできるんじゃないかというくらい戦力差の少ないチーム構成になったと思います。昨年末の快進撃を知るメンツがほぼほぼ残ってくれたので、今年も期待できる一方で、得点王だった藤岡浩介選手が抜けてしまったため、唯一の不安点とすれば、その穴を埋められる得点王を狙える選手が現れるか、ないしは残った選手全てで補えるかという部分が焦点になるでしょう。

そうなると、期待が寄せられるのは、新加入の佐々木快選手。今年の漢字一文字が『愛』だったので、彼の弾幕、快の文字にハートマークがあしらわれています（ニヤニヤ）。

注目の試合、岐阜は思っている以上に動きがよろしくない。非公開の練習試合が組まれていたとはいえ、2/8 のヴィアティン三重のトレーニングマッチが大雪で中止になったのが大きかったんだなあと思わされるものに。やはり、実戦経験の乏しさと岐阜に戻ってから雪で練習がままならなかったことも大きかったのかなあと。ちぐはぐな動き・距離感が掴めていない・連携不足・パス回しが上手くないかななど悪いところを挙げたらキリがない状況に。そのパス回しも単調だったのか、相手に読まれてしまう始末。FC 大阪がどのくらいトレーニングマッチを行い、どんな相手とやってきたのかは不明なもの、ウチのように格上とのトレーニングマッチはベガルタ仙台だけでこの動きなら、昨年昇格プレーオフまで行けた実力がわかるというものです。それだけ FC 大阪はキチッと対策を練っていたように思いました。

その結果、前半 20 分に失点。守備陣が 4 バックになっているのが悪く作用したのか、ちゃんとクリアできなかっただけのシンプルなミスが原因なのかは、今後わかるでしょう。

ただ、個人的な見立てでは、4 バックは窮屈な守備になっていたようにも。3 バックの方が伸び伸びとやっていたように思えただけに、運動量が増えて大変なんでしょうけど、中盤に厚みを持たせた方が攻守のメリハリも効くと思いますが、いかに。

FC 大阪のペースで迎えた後半になって、少しずつではありますが、ウチの動きもよくなって、相手ゴールに向かうシーンも増えてきました。決定的になったのは、萩野滉大選手が投入されてからだと思います。中盤が活性化され、動きにメリハリが付いてきて、相手には脅威に思える部分が増したようにも。それでも得点シーンにはつながらず、もどかしさが募ります。

このまま終わってしまうのか……と思っていた試合終了間際に大きく動くことになろうとは。

途中交代で今年加入の箱崎達也選手がセットプレーを担う、

ある意味ラストプレーに近いシーン。彼が大きく蹴り上げた球は、混戦になっていたゴール前に放り込まれ、そこに待ってましたとばかりに受け止めたのが、来ましたよ、佐々木選手です。2017 年にレノファ山口戦で見たナンチャン（難波宏明アンバサダー）のバックヘッド以来のバックヘッドシュートが見事に決まって、同点に追いつきました。関西学生リーグのアシスト王になった箱崎選手が早速仕事をしてくれたよ。今年得点王の期待の掛かる佐々木選手が劇的なファーストラブを注入したよ！

この得点が利いて、1-1 の引き分けに。関西では勝てないウチは、また勝てなかったけど、勢いを削ぎかねない負けに至らなかったことは非常に大きかったと思います。

なかなか厳しい現実を突き付けられる試合となりました。戦力を揃えたからって勝てるわけじゃないという現実には重く受け止めないといけないですね。ここでそれができないと銀河系集団といわれた 2022 年の二の舞になりかねないですから……。

だからこそ、公式サイトでの試合前コメントで挙がっていた山田直輝選手の『まだまだ大島康明監督の理想形のサッカーには遠いかなと思いますが、だからこそこの開幕戦が一番弱かったねと言えるチーム』になってくれるいい機会になればとも思いました。この言葉が皆から漏れてくれば、ちゃんと総括できて、次はいい試合になると思います。

そして佐々木選手、Jリーグの公式サイトでの試合後インタビューで『今日は僕のゴールで愛を受け取ってくれましたか？』と答えてくれました。もちろん、この劇的な注入劇は、忘れないでしょう。でも、これを上塗りできるような愛（ラブ）注入をお願いしたいです！

次の試合は、ホーム開幕戦になるヴァンラーレ八戸戦。何度も出てきますが、佐々木選手の元所属であり地元のチームです。決意と覚悟をもって岐阜に来てくれたと思いますから、単なる恩返し弾ではなく、旧友（かつてのとも）への決意弾として一発決めてほしいものです。（アレックス）

●あっという間のオフシーズンが過ぎ、いよいよ始まる 2025 シーズン。好調だった昨季終盤のメンバーがほとんど残ってるから、今季も 3 バックかと思いきや 4 バックで、中盤は #16 西谷亮と #10 北龍磨の 2 ボランチで #15 山田直輝がトップ下。大島新監督になったんだから当然なんだけど、昨季終盤とはサッカーが変わるはずで、この試合では、それが悪い方に変わってしまったように思う。

J3 の多くのチームがフィジカル重視型であることは周知の事実として、その中でも FC 大阪は極端な部類に近い。今季も開幕戦からそういうサッカーを仕掛けてきて、まだ慣れない岐阜の選手たちは、まともに受けてしまい、大阪のサッカーに巻き込まれてしまう。大阪の選手たちは常にハイプレスを仕掛けてきて、ボールを収めるのに時間がかかると引っかけられる。そして、ボールを奪うと素早く縦へ浮き球のロングボールを出して、落下地点に走り込んで再びデュエル。浮き球を応酬する時間が続き、岐阜の選手同士が交錯してボール処理がもたついた隙を突かれ、先制点を奪われる。完全に大阪のパターンにはめられた形だ。一方の岐阜は、攻撃が活性化しない。僕が一番大きい原因と感じたのは、昨季の #11 藤岡浩介と今季の #11 佐々木快の違いだ。良い悪いではなく、藤岡が下がってボールを受けていたのに対して、#11 佐々木は前線でボールを待つタイプのように、そこにボールが供給されないで、全体として攻撃のスイッチが入らないように見えた。

現地で見てた時には、僕は相当にイライラしてた（苦笑）んだけど、試合後のインタビューで「長い芝でボールが転がらなかった」と知り、ハッと気づいた。そうか、FC 大阪のホームは“ラグビーの聖地”花園なんだ。サッカーで使う芝（20mm 程度）に比べ、ラグビーの芝は長い（30mm 程度）はずだ。そりゃボールが転がらずに止まるから、ホームチームの FC 大阪は浮き球を多用するし、フィジカル勝負を仕掛けるはずだ。まあシンプルな戦術だから、あまり選手を選ば

ずに浸透させやすい、という理由もあると思う（苦笑）。ただ、この強度で（しかも長い芝で）走り続ければ、大阪の選手たちはスタミナ切れを起こす。後半途中からは、戦術修正と選手交代で、徐々に岐阜もボールが回り出すが、決定機は#8 荒木大吾の1回ぐらいだったかしら。今日は運も味方しないのか……と開幕戦早々、重い雰囲気になりそうだったけれど、後半A T 5分に#11 佐々木の同点弾！最後の最後に追いついて試合終了。交代で入った大卒Jデビューの#28 箱崎達也がF Kを蹴って、明らかにデザインされたセットプレーでの一撃。ガンバからレンタルの#7 中村仁郎のプレーも目を見張るものがあって……なんだ、2人とも大阪出身やんか（笑）。まずは、勝点1を持って帰れてよかったと思うことにしたい。これもまた当然なのだけれど、不安要素と楽しみな要素が混在する開幕戦だった。（ささたく）

●試合はドロー。終了間際のセット・プレーで追いつくとか、『貴重な勝ち点1』というのを、文字通り……というか、絵に描いたような……というか、形にするとこうだよな〜、って。まあ、そのすぐ後のプレーで危うく勝ち越されそうになるのはどうかと思うけどさ。マジで怖かったよ。

その他にも、「今日は大吾の日ではなかった。」とか「FWは89分何もしなくても、残りの1分の間に決めればいい。」とか、サッカーの格言みたいなセリフがポンポンと浮かんてくるような展開。もちろん、「この試合が今季最低の試合。」と思えるほど楽観的にはなれないし、もっとキツい内容の試合があるコトも想定しとかなきゃ……とは思いますが、追いついてくれたおかげで「関西無勝のジंकスは続く。」というネタもあんきに使える。負けて使うには自虐に過ぎるもんね。コレで「そうだ！奈良に行こう。」って気にもなれたしさ。とはいえ、有り体に言えば、大吾が決め切れなかった時には「今日もダメか。」とアタマを抱えた（苦笑）。

しかし、なんというか、「毎度お馴染み、コレが大阪のサッカー」というプレースタイルに押されっぱなしだったね、というのが花園での率直な感想。失点の場面も、雑な見送り方でボールをバウンドさせたり、自分より小さいFWに競り負けたりしたコトがね。ちょーっとばかりし、軽かったような気もする。ただ、そういうところも含めて、「FC大阪の試合」をやられてしまった。さすがは、昨季のプレーオフ進出クラブという感じ。しかも、さらにソレを継続していくあたりが「これが積み重ねというヤツか。」と思わされた。昨季同様、90分間続けることが出来なかったけれど、追加点が入っていたら、そのままだったような気がする。改めて、彼らの姿勢には敬意を抱かずにはいられないね。

ただ、現場で見た印象とDAZNで見返した時の見え方というのは、やっぱり違うんだね。シン・監督の言う「3MF」。現地では、渋滞、停滞のどん詰まりに見えたけど、映像で見ると個々的には、そこそこ見せ場もなくはなかった、のかな？そして、今季の『肝』、中心と思えた、その3人を躊躇なく、スパッと替えたコト。佐々木を使い通したのとは真逆の用兵。なんか、「度胸あるなあ。」とも思えてね。

果たして、この3人をスタメンで継続するのか、代えるのか。途中から入ったルーキー2人の動向、更なる成長と併せて、ホーム開幕戦が楽しみだねえ。

そして、この日の一番の殊勲者は天気。木曜日辺りには降水確率80%ってなってたよね？よくぞ、ここまで回復してくれました。まさに『観戦日和』でしたね。逆に、ホーム開幕戦の方が防寒対策必至。2月の長良川だからしかたないと言えはそれまでだけれど、雪だけはカンベンしてほしい。でも、そんな寒さをぶっ飛ばすようなアツい試合を期待してます。頼んだよ！（ぐん、）

●「雪で中止になったT M三重戦は、こんな試合内容であるべきだったんだろうなあ……」と思ったのは、S N Sを読むとぼくだけではなかったらしい。そんな試合だった。

前半から「かみ合わない」岐阜の攻撃。ボランチ西谷からのパスが「攻撃の終点」になったシーン、多数。昨年終盤の好

調時は効いていたと思うのだが……。もしかしたら、彼はピッチの上に『藤岡浩介』を見ていたのかもしれない。トップの位置から降りてきて、楔になったり自分で受けて推進してくれたり「自在流」で攻撃を牽引していた藤岡の姿を。しかし、今年の岐阜には彼はいない。一方のFC大阪は、岐阜のボール保持者に徹底的な個人攻撃、鬼プレスをかけて奪ったら攻撃手の全員でラッシュ。チームとして出来上がっている、「いちいちかみ合わせる必要がない」変わらぬスタイル。先制されるのは当然だった。

もしFC大阪が90分このサッカーを続けられるのなら「ごめんなさい優勝してください岐阜は2位を狙います」と脱帽してもいいと思った。もちろん、「続けられるはずがない」という意味で。実際、後半なかばからは鬼プレスが効かなくなっただけで岐阜のターンに。西谷→萩野の交代で中盤が機能したし、泉澤を下げてダイゴを左に『戻した』ことでサイドも機能。「ドローまでは描けるかな」と思ったところで、佐々木快のヘッドで同点。前半にもC Kから同じようなヘディング・シュートを狙ってたし、練習してきたんだろうね。実になってよかった。

さて、このドローをどう見るか。最初に書いた「T M三重戦」というのは、これだけ『想定したようには動かない』のはT Mで晒しておくべきだったと思うから。「岐阜のプランの脆弱さ」を公式戦で出してしまった。大島監督は「3MFがより流動的にプレーするためのプレーモデルを構築している」と試合後に話していて、なんか『通い慣れた道』を今年も歩くのかしら……と不安に。もちろん、3MF（おそらく、この試合ではナオキ・西谷・リョーマか）が流動的にプレーするサッカーが出来たら綺麗に崩せて綺麗な攻撃が出来るだろう。でも、この試合では攻撃ターンで選手が「流動的」だったシーンがどれだけあったか、ほとんど思い出せない。「流動的にプレーするモデルを構築している（途中）」だったなんて、現地では想像も出来なかった。

これは毎年の岐阜が定例的に『必ず』引っかかるんだけど、「綺麗に崩した綺麗な攻撃」のゴールが2点にカウントされるわけではない。そして「流動的にプレーするモデル」が出来た時には勝率5割で残り6試合……とかの『通い慣れた道』なんじゃないかという不安。大島監督は初めてかもしれないけど、ぼくら岐阜サポは、少なくとも、ぼくはそうだ。「ああ、また今年も『いずれ完成すれば美しいサッカーの悪夢』を見せられるのか……」。もちろん、そうでないことを期待します。実際に大島監督は鹿児島でJ3を率いた時には短期に結果を出してますものね。（吉田铸造）